

第 58 話 (34 頁) 荷物をかついで

フランス人との戦争のあと、モスクワにお百姓がふたり、ひと財産こしらえようとやってきました。ひとは頭のいい男で、もうひとは頭の足りない男でした。ふたりはいっしょに、やけあとにきて、こげた羊毛を見つけました。家の役にたつだろうと、ふたりは言う、持ちだせるだけしばって、家にむかって歩きだしました。

とちゅう、通りで、むしろの下にラシャ*がおいてあるのを見つけました。頭のいいお百姓は羊毛をなげおろして、ラシャを持てるだけしばると、かたにかつぎました。足りないほうがいきました。

「どうして羊毛をすてなければならぬのかね。しっかりゆわえて、かたにしっくりおさまっているのに。」

そして、ラシャはとりませんでした。

ふたりがさらに行くと、道に服がすててあるのが見えました。頭のいいお百姓はラシャをおろすと、服をしばって、かたにかつぎました。足りないほうがいきました。

「どうして羊毛をすてなければならぬのかね。しっかりゆわえて、かたにぴったりおさまっているのに。」

さらに行くと、銀の食器がおいてあるのが見えました。頭のいいほうは服をすてて、持てるだけの銀を集めて持っていきましたが、足りないほうは、羊毛がしっかりゆわえてあって、かたにぴったりおさまっていたので、おろしませんでした。

さらに行くと、道に金がおちていました。頭のいいほうは銀をすてて金をひろいましたが、足りないほうは、こういきました。

「なんのために羊毛をおろさなければならぬのかね。しっかりゆわえて、かたにしっくりおさまっているのに。」

そして、ふたりは家に帰っていきました。とちゅう、ふたりは雨にふられ、羊毛がびしょぬれになってしまったために、足りないほうはそれをすて、家にはなにも持ち帰りませんでした。頭のいいほうは金を持ち帰り、お金持ちになりました。

*ラシャ…地のあつつけばだった毛おりもの

「これまでの一般的なお話と、評価が全く逆だね。『頭のいい男』と『頭の足りない男』が登場して、前者の男が『お金持ちになりました』で終わっている。欲を出すと損をする、と

というのが、トルストイのメッセージだったんじゃないかな、いままでは。」

「そう思うよね。『イワンの馬鹿』なんか、その典型だ。愚直に徹した生き方こそ望ましい、とばかり、トルストイの価値観を理解していたなあ。」

「要するに、そういう理解が間違っていたんだ。あるいは、局面が違うところで、違うメッセージを送っているのだろうか。」

「機転を利かせること、お金を増やしていくことが善だ、とトルストイは考えていたのか。資本主義の興隆期に通じるね。」

「頑迷固陋は、やはり排斥されるべきだと…。変革、進取の精神こそ、トルストイも大切にしていたものだろう。」

「訳者の八島さん自身は、第 38 話『オオカミと犬』（21 頁）でも取り上げた日本トルストイ協会の講演会で、『この話はこのまま受け入れなくてはならないのです』と前置きして、こう話している。『トルストイの考えでは、人は天から授かったこの体をできるだけ使い、この頭をできるだけ使って、この世に生きていく限り、より多くの善をなし、富をより大きくしなければなりません。これこそが、トルストイの道德観の大前提になっている』と。」

「確かにそうなんだろうけど、やっぱり、ちょっと違和感が残るなあ。」

「もっとも『頭の足りない男』の愚直加減も度を過ぎていて、あきれられるばかりだけどね。」

「ところで、以前に、学生から感想を聞いたことがある。『頭のいい男』については、チャンスを見逃さずに自分のものにして、周りの人に左右されずに自分の考えで行動している、先を見通して自分に何が大切かの判断力を持っている、臨機応変に対応したから成功できた、といった肯定的な意見が多かった。少数だけど、世渡りが上手で賢い、と疑問を呈した学生もいたよ。」

「なるほどね。もう一人の『頭の足りない男』の方は？」

「最初に拾った毛織物をずっと持っていった正直者がばかを見た印象だ、あとで落ちていた銀や金の方が価値が高いとは考えられなかった愚か者だ、と両方の評価があった気がしたよ。」

「この話を、トルストイがいつも心がけていた子ども視線から捉えたら、どうなるか。知識より知恵を出せ、富を得るにはより価値の高いものを選び、機転を利かせろ、というメッセージを子どもたちに届けようとしたと、そう考えたらどうだろう。」

「トルストイの考えには多面性がある、と集約すれば、すとんと落ちる。」

「それでは安易すぎるよ。この話が、異彩を放っていることは、みんなが認めるんだから、その違和感を確認して締めくくりとしよう。」

<参考>

八島さん講演の指摘部分は日本トルストイ協会報「緑の杖」第 1 号所収、「道德の根源としての子供 ―『アーズブカ』の世界 ―」34 頁に載っています。